子に愛人の出来た場合

宮本百合子

一口に片づけ切れない複雑な問題と思います。　双方が総ての意味で真面目である場合とすれば、

一、現今のように、何か異状な出来事の如く感ぜず冷静に、深い愛を以って、愛人達の生活のよき発展を助けること、相手がよいわるい、適不適と云うことは当事者達の生活経験によらなければ云えないことと心得ること。

二、どこまでも正直に。強く、公平を失わないこと。

〔一九二三年七月〕

底本：「宮本百合子全集　第十七巻」新日本出版社
　　１９８１（昭和56）年３月20日初版発行
　　１９８６（昭和61）年３月20日第４刷発行
初出：「婦人世界」
　　１９２３（大正12）年７月増大号
※「一、親は我子に愛人の出来た場合如何にすべきか。
二、子は愛人の出来た場合親に対して如何にすべきか。」との問いへの答え。
※底本の「解題」（大森寿恵子）は、この作品名を「仮題」としています。
入力：柴田卓治

校正：磐余彦
２００３年９月15日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。